

第3回習志野市立大久保第二保育所及び菊田第二保育所移管先法人選考委員会議事録

1. 開催日時 令和3年12月19日(日)午前8時45分～午後3時59分

2. 開催場所 習志野市庁舎3階 特別会議室及び大会議室

3. 出席者

【委員 長】	習志野市副市長	諏訪 晴信
【副委員長】	習志野市こども部 部長	小平 修
【委 員】	習志野市立保育所私立化ガイドライン 改定懇話会の委員であった者	田島 大輔
	習志野市民生委員児童委員協議会 推薦	中川 裕子
	習志野市民生委員児童委員協議会 推薦	富田 明子
	習志野市政策経営部 部長	竹田 佳司
	習志野市総務部 部長	斉藤 勝雄
	習志野市こども部こども保育課 課長	篠宮 淳一
	習志野市立大久保第二保育所 所長	近藤 明美
	習志野市立菊田第二保育所 所長	牧口 千恵子
【事務局】	こども部 次長	根本 勇一
	こども部 副技監	江口 浩雄
	こども部こども政策課 課長	齊藤 洋介
	(こども部) 主幹	新井 理香
	企画管理係長	三代川 昌弘
	施設係長	松本 大輔
	副主査	鈴木 真理子
	副主査	清水 隆之

以下のものについては、「公開プレゼンテーション」の出席者

【法 人】 法人A
理事長、施設長予定者、担当者
法人B
理事長、理事、担当者
法人C
理事長、担当者、担当者
法人D
理事、施設長予定者、担当者
法人E
担当者
社会福祉法人習志野
田久保 明夫（理事長）、飯塚 源太（理事）

4. 議題

第1 会議録の作成等

第2 会議録署名委員の指名

第3 審議

(1)二次審査(公開プレゼンテーション)の審査方法について

第4 その他(事務連絡等)

第5 公開プレゼンテーション

(1)法人A

(2)法人B

(3)法人C

(4)法人D

(5)法人E

(6)社会福祉法人習志野

5. 会議資料

資料1 大久保第二保育所及び菊田第二保育所移管先法人の二次審査方法

資料2-1 大久保第二保育所移管先法人の二次審査参考資料

資料2-2 大久保第二保育所移管先法人の二次審査事務局所見

資料3-1 菊田第二保育所移管先法人の二次審査参考資料

資料3-2 菊田第二保育所移管先法人の二次審査事務局所見

資料4-1 大久保第二保育所移管先法人の二次審査 仮採点票

資料4-2 菊田第二保育所移管先法人の二次審査 仮採点票

6. 議事内容

開会

【諏訪 晴信 委員長】

ただいまより、第3回習志野市立大久保第二保育所及び菊田第二保育所移管先法人選考委員会の会議を開会する。

習志野市立大久保第二保育所及び菊田第二保育所移管先法人選考委員会設置要綱第6条の規定により、委員5名以上の出席が成立要件となっている。

ただいまの出席委員は10名であり、本会議は成立した。

第1 会議録の作成等

【諏訪 晴信 委員長】

会議録については、要点筆記とし、会議名、開催日時、開催場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員及び所管課名を記載した上で、会議ごとに確定するが、第1回会議において決定したとおり、移管先法人の決定後に、すべての会議録を市ホームページ及び市役所グランドフロアの情報公開コーナーにおいて公開する。

なお、本日の公開プレゼンテーションについては、私立化ガイドラインに基づき、保護者のみを対象に公開することとしている。

これらに異議はあるか。

【一同】

異議なし。

【諏訪 晴信 委員長】

異議なしと認め、そのように取り扱うこととする。

第2 会議録署名委員の指名

【諏訪 晴信 委員長】

会議録の作成にあたり、正確性・公正性を期するため、委員長において、田島 大輔 委員、中川裕子委員、富田明子委員の3名を、会議録署名委員に指名することに異議はあるか。

【一同】

異議なし。

【諏訪 晴信 委員長】

異議なしと認め、私から会議録署名委員に、田島 大輔 委員、中川 裕子 委員、富田 明子 委員を指名する。

第3 審議

(1)二次審査(公開プレゼンテーション)の審査方法について

【こども政策課長 齊藤 洋介】

大久保第二保育所及び菊田第二保育所移管先法人の二次審査の方法について、前回会議で承認いただいた審査方法からの進捗及び変更点を説明する。

まず、書類審査、面接審査及び現地調査について、事務局による審査結果を、事務局所見としてまとめた。各委員の二次審査の参考資料としていただきたい。

次に、公開プレゼンテーションについて説明にする。

対象施設の保護者に応募書類を閲覧したところ、各保育所から2件ずつ質問の提出があった。法人からの回答をとりまとめ次第、保護者に回答する予定である。

このあと9時から、及び次回25日の公開プレゼンテーションにおいて、各委員には仮採点票を用いて、仮採点を実施していただく。

また、参加保護者に対して、アンケートを実施するが、今回のプレゼンテーションは、応募法人が多く拘束時間が長くなることから、出席が難しかった方が多いと考える。当日参加出来ない保護者に対し、選考に関わってもらう機会を確保するため、公開プレゼンテーションを録画したDVDを貸し出し、保護者アンケートを提出いただくように変更しようとするものである。

なお、応募法人には事前に連絡し、承諾いただいている。

この保護者アンケートは、結果をまとめ、二次審査に係る参考資料とする。

その他の内容に変更はない。

最後に、第5回会議は、令和4年1月20日、17時からを予定している。

【諏訪 晴信 委員長】

事務局から提案のあった、公開プレゼンテーションを録画したものを保護者に貸し出す等について、質疑・意見等がないようであれば、お諮りする。

事務局提案のとおり、二次審査の審査方法を決定したいが、異議はあるか。

【一同】

異議なし。

【諏訪 晴信 委員長】

異議なしと認め、二次審査の審査方法は、事務局提案のとおりとする。

以上で、本日の審議を終了する。

第4 その他(連絡事項等)

【こども政策課長 齊藤 洋介】

本日のスケジュールを説明する。

大会議室に移っていただき、9時より大久保第二保育所に係る公開プレゼンテーションを実施する。3法人のプレゼン後、昼休憩をはさみ、さらに3法人のプレゼンを行い、終了は午後4時を予定している。

各委員におかれては、法人への質問及び仮採点をお願いする。

なお、本日は6法人のプレゼンを予定しているが、各法人に対して応募法人数を公表していないため、各法人の応募書類は、当該プレゼン資料のみを机に出し、残りは目立たなくするなどの配慮をお願いする。

【田島 大輔 委員】

前回の会議で議論となった両施設に応募した法人について確認したい。

両施設に応募した法人がそれぞれ選考された場合、一方を辞退するのではなく、両施設の移管を受けるという理解でよろしいか。

【こども政策課長 齊藤 洋介】

そのとおりである。

第5. 公開プレゼンテーション

【諏訪 晴信 委員長】

本日はお忙しい中、お集まりいただき、心より感謝を申し上げます。

すでに承知と思うが、本市は、令和2年3月に策定したこども園整備と既存市立幼稚園・保育所再編計画 第3期計画において、2こども園の整備と3保育所の私立化を予定している。

大久保第二保育所は、令和6年度に私立化することとしており、この移管先法人の選考に当たり、6月14日より公募手続きを開始し、9月30日までの応募受付期間に、6法人から応募いただいた。

本日は、その法人から応募理由、法人としての保育方針・目標などをプレゼンテーション形式で提案いただくものである。

保護者の皆様方には、私ども選考委員と一緒に提案内容をお聞きいただき、お手元に配付のアンケートにて、忌憚のない意見をいただきたい。

また、選考委員会委員におかれては、今後の最終審査に向け、応募法人の提案内容を十分に理解いただけるよう、時間の許す限り質問していただくようお願いする。

本選考委員会は、本日のプレゼンテーションの内容、保護者アンケート結果などを総合的に判断し、安心して子どもを預けられる法人、また将来にわたり習志野市と協力して保育を実施いただける法人を選考したいと考えている。

本日は、長時間にわたるが、よい法人を選考するため、ご協力をお願いする。

(1)法人A

【法人A】

応募資料に基づき、プレゼンテーションを実施。

【近藤 明美 委員】

法人として実施している特色のある保育について、実施の理由及び方法を教えていただきたい。

【施設長予定者】

生活や遊びの中に文化があると考え。子どもたちの自主的な行動や考えを尊重していきたい。

人・物・場所、何事にも感謝をする。

保育士も子どもも、温かいふれあいを大事にしていきたい。

【近藤 明美 委員】

大久保第二保育所の保育を継承することについて、法人の考えをお聞きしたい。

【施設長予定者】

引き継ぎ保育と一緒に保育をしながら、文化を継承していきたい。

【篠宮 淳一 委員】

特別に支援を要する子どもの保育についてお伺いする。

支援が必要な子どもの受け入れをどのように考えているのか。また、その受け入れ体制についてもお伺いする。

【施設長予定者】

障がいの有無にかかわらず個性と捉える。

「みんな違って、みんないい」を子どもたちに伝えていく。

保護者との連絡を密にし、子どもの姿を共通理解し、就学に向けて方針を考えていく。

【中川 裕子 委員】

現在、地域や近隣の学校等と連携している実績があれば、お聞きしたい。

【施設長予定者】

小学校からの招待を受け、一年生と年長児が交流している。

また、近隣にある高校の吹奏楽部が来てくださり、法人内他園の年長児と一緒に交流する予定がある。

地域との交流は、盛んに取り組んでいきたい。

【竹田 佳司 委員】

延長保育・特別保育の具体性が欠けている部分について質問する。

一時保育、休日保育、そして19時以降の延長保育について、法人の運営施設での実績はあるのか。

また、大久保第二保育所の移管を受けた場合に、これらを実施する予定はあるのかお伺いする。

【担当者】

各運営施設の開園時間は、19時までである。

一時保育は、1施設で実施しており、現在はコロナの影響により中止しているが、来年度から再開する予定である。

大久保第二保育所の移管を受けた場合の一時保育については、実施したいと考えているが、地域のニーズに合わせるため、これから検討するところである。

【竹田 佳司 委員】

施設整備計画において、一時保育室が見受けられた。

ニーズも高いところであるため、ぜひ、前向きに検討いただきたい。

【田島 大輔 委員】

職員の研修について、不明瞭な点、詳細を説明いただきたい点を、主に3つお聞きしたい。

まず、一つ目として、応募資料に「会議などの機会を確保し、目標を共有しながらワンチームで協働していきます」とあるが、現状、どのように実施しているのか。

どのくらい時間を取っているのか、勤務時間外なのか時間内なのか、どのような体制で出られるのかを具体的に説明いただきたい。

2点目、自己評価を継続的に行っているということだが、評価方法、外部機関との連携について説明いただきたい。

また、どのような研修計画を持たれているのか。

外部研修・内部研修の実施頻度、また、質の保障をどのように行っているのか。

3点目、保育所保育指針に基づいた保育を行うための研修は、どのような形で、どのように行っているのか。

【施設長予定者】

会議時間の確保については、午睡の時間や勤務時間外の夕方に時間を設けて実施している。今後も同様に考えている。

【田島 大輔 委員】

一つずつ詳細にお聞きしたい。

まず、ノンコンタクトタイムが取られているのか、取られていないのか。

また、時間外手当は、どのように考えているのか。

【施設長予定者】

勤務時間外での実施については、時間外手当をつけている。

【田島 大輔 委員】

ノンコンタクトタイムは、どれくらいの割合で行われているのか。

【施設長予定者】

詳細はわからない。

【田島 大輔 委員】

現状はいかがか。

【施設長予定者】

現状、コロナの関係で長時間は取れないが、午睡の時間に1時間程度である。

【田島 大輔 委員】

頻度はどのくらいか。月に1回程度か。

【施設長予定者】

月に1回である。

【田島 大輔 委員】

どれくらいの人数が参加しているのか。

【施設長予定者】

1クラス、クラスリーダー1名が参加する。リーダーが打ち合わせ内容をクラスに持ち帰り、クラスの職員に伝える形である。

【田島 大輔 委員】

全員で集まることは、非常に難しいということか。

【施設長予定者】

現在は、そのようにおこなっている。

また、2点目の自己評価の方法であるが、年に一度、自己評価のチェックシートを用いている。

【田島 大輔 委員】

どのように職員を評価し、質の向上に努めているのか。フィードバックの方法を教えてください。

【施設長予定者】

園長が、その人に足りない部分をフィードバックしている。

【田島 大輔 委員】

今、360度評価が求められているが、職員から管理職への評価は、どのように実施しているのか。

【施設長予定者】

自己評価のチェックシートの項目に、保育士から管理職への項目があり、そちらで知らせている。

【田島 大輔 委員】

一方的に知らせるだけで、管理職の自己評価はないということか。

【施設長予定者】

最後に総評は出ている。

【田島 大輔 委員】

職員側から管理職に渡され、管理職側は誰から評価されるのか。

【施設長予定者】

主任保育士は、園長から評価される。

【田島 大輔 委員】

職員と管理職とのパワーバランスの中で、職員からの提案・要望に対して、管理職が一方的に決定するわけにはいけない。

管理職の自己評価は、まだされてないということか。

【施設長予定者】

園長の経験がないため、詳細がわからない。

【田島 大輔 委員】

少し関係ない意見ではあるが、厚生労働省においても自己評価ガイドラインを示している。管理職側も評価されないと徒弟関係になり過ぎてしまうため、検討いただきたい。

最後に、主体的な保育をするため、具体的にどのような検証をされているのか。

【施設長予定者】

キャリアアップ研修への参加や、園内において1年の保育を振り返る研修をグループで実施している。

【田島 大輔 委員】

年間どれぐらいの頻度か。

内部研修なのか、外部研修なのか。また、外部から講師を招くのか。

【施設長予定者】

外部から講師を招いた経験はない。

園内で、月に1回、研修の時間をとっている。

【齊藤 勝雄 委員】

施設整備計画書についてお伺いする。

まず初めに、資金計画書の支出の部において、「その他」項目に500万円を計上しているが、具体的に内容を教えていただきたい。

【担当者】

太陽光発電に関する工事である。

【齊藤 勝雄 委員】

次に、募集要項において、施設整備にあたり市内業者の活用を謳っている。

施工、設備関係、警備、備品購入において、多額の経費を計上している中で、地元経済の活性化、雇用促進という観点から、具体的に、市内業者をどのように活用しようと考えているのか。

【理事長】

移管先法人として決定したら、各建設会社に見積もりを取る中で、なるべく低価格の建設業者を、入札で決定したいと考える。

財政的な負担軽減のためにも、市内業者を念頭に置いている。

【小平 修 副委員長】

まず、大久保第二保育所の私立化に応募いただいた一番の理由をお伺いする。

【理事長】

日々、保育園で子どもたちを預かっている中で、どれだけ保護者から好意的に見てもらえるかということを考えている。

ぜひ市に協力して、子どもたちの日々の生活が楽しくなるようにしたいと思い、応募した。

【小平 修 副委員長】

公立保育所の私立化において、実績ある法人であると認識している。

応募理由に「長所を反映していきたい」とあるが、具体的に説明いただきたい。

【担当者】

複数市において公立保育園の移管を受けている。その民営化のノウハウを活かしていきたい。

【小平 修 副委員長】

「保育方針・保育目標」において、保育目標を4つ提案いただいている。

大久保第二保育所を私立化するにあたり、他法人と比較し、特に力を入れたいところをアピールいただきたい。

【理事長】

全身全霊をかけて保育園づくりに頑張っていきたい。

保育園一つ造るにも、職員や延長保育など、いろいろな問題がある。

私たちは、今3園を運営している中で、少しだが保護者の不安・要望をわかっているつもりでいる。その辺についても頑張っていきたい。

【小平 修 副委員長】

職員研修について、手前みそではあるが、大久保第二保育所においても、公立保育所として研修に力を入れ、工夫しながら職員の育成をしてきた。

大学等で学び、新規として採用される方、他保育所等で経験を積み、途中で採用される方、法人内で活躍されてきた方と、それぞれスキルが異なっている中において、さらに育成し活躍していくための取り組みがあれば教えていただきたい。

【施設長予定者】

公立における研修の取り組みを、引き継ぎ保育で教えていただき、引き継げるところは引き継いでいきたい。

外部研修にも参加し、私自身も自己研鑽していきたい。また、園長経験がなく、どのように研修を進めていくべきか、これから勉強しなければいけないと考えている。

【諏訪 晴信 委員長】

公立保育所と法人が運営する私立保育所に大きな違いはあるか。

【施設長予定者】

公立の勤務経験はないが、私立のほうが、特色が出ると考える。

【諏訪 晴信 委員長】

それぞれの施設における引き継ぎ保育の中で、公立と私立と違いを感じたか。

【施設長予定者】

やはり、公立の先生方は経験豊富であり、保育の仕方、保護者への接し方など、いろいろなことを教えていただいた印象がある。

【諏訪 晴信 委員長】

移管を受け運営している施設において、どのように生かされているのか。

【施設長予定者】

すごくいいと思った点は取り込み、改善したほうがいいと思った点は、自分なりに考えて改善するという形で、子どもたちの保育に生かしている。

【田島 大輔 委員】

2点お伺いする。

まず、昨今、非常に保育士不足が懸念されている中において、職員採用に対する法人の理念をお伺いする。

確保を目指すことは当たり前であるが、ぎりぎりの採用人数とするのか、大目の採用人数とするのか。現状を踏まえながら、考えをお話いただきたい。

2点目は、施設長予定者にお聞きする。

施設長は未経験ということであったが、施設長としてのビジョンについて、再度お聞かせいただきたい。

【担当者】

採用については、人数にゆとりを持っておこないたい。

【田島 大輔 委員】

現状、運営している園においても、規定人数より多く採用している認識でよいか。

【担当者】

そのとおり。フリーの保育士を3人くらい多めに採用している。

【施設長予定者】

子どもたちのためにどうしたらいいか、私を含め職員一人一人が自ら考え判断し、保育を想像できる力をつけて、自信を持って仕事ができるようにと考えている。

また、私には、生きることを楽しめるような子どもを育てるという目標がある。

(2)法人B

【法人B】

応募資料に基づき、プレゼンテーションを実施。

【近藤 明美 委員】

保育内容についてお伺いする。

先ほど、「外部講師を呼んだ詰め込みはおこなっていない」という説明があったが、法人として保育の特色などあったら、実施の理由と方法について教えていただきたい。

もう一点、大久保第二保育所の保育の継承について、法人の考えをお聞きしたい。

【理事長】

当法人の保育の特色としては、毎日、子どもたちが伸び伸びと集団生活を送れることを第一に考え、地域の方との関わり、子ども同士の関わり、先生との関わりに力を入れ、日々保育をしている。

また、子どもたちのための環境づくりにおいて、例えば、当法人の保育目標にある、「笑顔で元気に笑える子」、「挨拶ができる子」、「友達を大切にして思いやりのある子」を育てるために、まず僕達が手本となることが大事であると考え、研修に力を入れている。

保育者が、保護者と顔を合わせた際に、よそよそしくするのは違うと考える。子どもは、友達の親や先生と楽しそうにしている親の姿をよく見ているため、私たちがその環境を作っていくことも大切である。

大久保第二保育所の保育の継承に関しては、今現在の保育を取り入れながら、互いに協力し、新しい形の保育園を作りたい。当法人のやり方を押し付けるのではなく、互いのいいところをミックスしながら、自身も成長できればと考えている。

【篠宮 淳一 委員】

特別に支援を要する子どもの保育についてお伺いする。

先ほど、今までの受け入れ体制を説明いただいたが、大久保第二保育所の移管を受けた場合に、もし特別な支援を要する子がいた場合には、同じような職員体制を敷いて、受け入れていただけるという理解でよいか。

【理事】

どの園においても、どの程度の配慮が必要かは、子どもの様子を見させていただいた上でとなるが、入園前に保護者との面談や関係機関からの情報を基に、適切に職員配置をしていきたい。

また、子どもは、本当にすごく成長していくため、当初配置を押し通すのではなく、状況に応じた適切な配置ができるよう、安全面を一番配慮しながら配置する。

【篠宮 淳一 委員】

医療的ケア児の受け入れについては、どのように考えているのか。

【理事】

現在、法人で8園を運営しているが、看護師を配置する園はなく、今まで医療的ケアが必要な子どもをお預かりしたことはない。

今、医療的ケアが必要な子どもが増えていることは把握している。

当法人で移管を受けさせていただけたとなった場合には、配属する看護師、嘱託医、市の担当者と相談しながら、その子を安全に受け入れできる状況がとれるようであれば、教育を受ける権利はみんな平等にあるため、法人としても努力していきたい。

【中川 裕子 委員】

関係機関及び地域との連携・交流についてお伺いする。

プレゼンで紹介された体育館での交流、老人ホーム、小学校との交流の実施頻度、対象年齢をお伺いする。

また、コロナ渦でおこなわれていないかもしれないが、今までの実績等があれば教えていただきたい。

【理事】

地域交流に関して、夏祭りの後、法被姿でお神輿を担いで近所を回ったり、ハロウィンでは、近所の方にも協力いただいて、子どもたちが仮装して訪問させていた。

また、敬老の日に、施設のある建物の大家、いつも散歩を見守ってくださる近所の方の家にお伺いし、子どもたちの制作物をプレゼントすることもおこなった。

今の事項に関しましては、いつも子どもたちに関わってくださる方々であるため、なるべく年齢問わず行けるようしている。

老人ホームと小学校の交流に関しては、コロナの影響により行けなくなってしまったが、5歳児を中心にして、クリスマスに歌や楽器演奏の披露にお伺いしたり、おじいちゃん、おばあちゃんに園に来ていただき、お手玉遊び等を教えていただいたりしていた。

小学校の見学等に関しては、子ども人口が増加している市においては、小学校から断られることがあるが、受け入れていただける小学校では、校庭で遊ばせていただいたり、実際に教室の見学等をさせていただいたりしたことがある。

来年度以降も、コロナの状況を見ながら迷惑にならない範囲で、できる限り交流していきたい。

【竹田 佳司 委員】

延長保育・特別保育について質問する。

提案では、あくまでも柔軟に、地域ニーズを見てということであった。

社会福祉法人として4施設、系列法人として4施設を運営されているとのことであるが、それらの施設での延長保育・特別保育の実績をお伺いする。

【理事】

8園では、延長保育をほぼ毎日、6時1分から7時で実施している中で、地域によって利用人数が異なるが、5名が利用する園から20名近く利用する園もある。

毎月の利用状況を伺いつつ、突発的な利用にも対応できるように職員配置は多めに設定している。

なお、特別保育、休日保育の実績等はない。

【竹田 佳司 委員】

一時保育の実施はいかかが。

【理事】

無認可の頃、小規模保育施設において、積極的に受け入れて、口コミでどんどん広がった実績があるが、今の認可保育園では、子どもを受け入れられるプラスアルファの部屋がないため実施できていない。

私自身も無認可の頃から、一時保育の大切さ、一時保育で得てきた信頼だったり、保護者の喜びだったりを直接肌身で感じているため、ニーズがあり、設備があれば、ぜひ実施したい。

【竹田 佳司 委員】

大久保第二保育所は駅から近いため、ニーズが高いと考える。

また、施設整備においても、部屋を準備いただいているようにお見受けする。ぜひ前向きに検討いただきたい。

次に、施設の計画図について、平屋建ての中庭ということで、少し特徴的な保育園とお見受けする。定員設定も多い施設ではあるが、中庭の利用方法について、狭隘な園庭においても保育できる特徴的な取り組みの予定があったらお聞きしたい。

【理事】

8園は、園舎と並行して園庭がある造りであり、また、募集要項に記載の定員規模の保育園の運営は初めてとなる。

現時点における、当法人の最大定員となる定員96名の保育園においても、園庭の使用がかち合ってしまう状況がある。

現在、年齢ごとの活動時間の差を利用し、例えば、午前の早い時間帯に乳児が園庭を使用し、幼児は制作活動や歌の練習に当てる。時間交代で、乳児の給食の時間帯に幼児が園庭で遊ぶなど、時間差を設けて園庭を使用している。

また特に、乳児は、いろいろなところに行って目が届かなくなったり、転倒して怪我することがあるため、安全に遊べるよう、スペースを区切りながら使用している。

大規模な保育園においては、たくさん子どもたちが一斉に園庭に出ると危険になることから、年齢・時間・目的に応じて、仕切りをつけながら使用していきたい。

【田島 大輔 委員】

職員の研修について、研修を重要視する記載がある一方、詳細な記載がないところがあるため、3点について確認したい。

まず、研修の大切さの前提として、会議やノンコンタクトタイムなどの時間はどのように行っているのか。

2点目、外部・内部研修を行うことは大事であり、加えて今、保育所保育指針では自己評価について示されたが、施設長及び職員含めて、どのように評価していくのか。

3番目、研修がたくさん記載されているが、研修計画の具体性が見えてこない一方、OJT研修を取り入れているようであるが、その意図や専門性の獲得について、研修計画を基にお聞かせいただきたい。

【理事】

会議の時間帯と頻度についてお答えする。

全職員でおこなう会議は、毎月最低1回は実施している。

乳児クラス、幼児クラスを担当する職員の会議である、幼児会議、乳児会議がそれぞれ週に1回ずつ実施している。

そのほか、園長・主任・副主任、いわゆるリーダー格の先生の会議であるリーダー会議は、園によって課題が異なり、頻度にばらつきがあるが、最低月2回、多い施設で週1回実施している。

【田島 大輔 委員】

会議の開催時間をお聞きしたい。

勤務時間外での実施なのか、または、勤務時間内にノーコンタクトで実施できているのか。午睡の時間や休憩を使っているのかなど教えていただきたい。

【理事】

全職員でおこなう会議は、閉園後の7時から実施しており、時間外手当をつけている。

乳児会議、幼児会議、リーダー会議は午睡中におこなうが、働き方改革が進み、1時間の休憩を必ず取るようにしており、フリーの先生等に入ってもらい、うまく休憩をまわしながら、会議時間を確保したうえで実施している。

次に、自己評価については、一般的に自分の保育を振り返るものであるが、年2回、9月と2月に実施している。

そのほか、当法人において、特に不適切保育を課題としている。

「つい」が多々見受けられるため、具体的に子どもがされて嫌なことは何か等を、毎月の職員会議の際に振り返るようにしている。

現在は全くないが、呼び捨て、名前を全く留めていないニックネームなど、何が不適切となるのかは、ひとによって価値観が違うため、不適切に関する事項の振り返りについて、特に今、力を入れている。

【田島 大輔 委員】

施設長等の管理職の自己評価、360度評価は実施しているか。

【理事】

施設長も自己評価もしており、法人本部にいる理事長、スーパーバイザーを含め、園長・主任の評価を実施しているが、法人として、まだ評価項目に具体性の欠ける部分があることを痛感しており、その部分の具体化、明確化することが、今、当法人に求められていることだと考える。

理事長、スーパーバイザーとともに本部において、よりいい振り返りがしっかりできるように取り組んでいる。

【田島 大輔 委員】

最後に、研修計画について伺います。

OJTのような動画研修が特色であると記載されていること及び専門性の獲得をどのように考えているのか。

現在、運営している施設における研修計画についても教えていただきたい。

【理事】

まず、外部研修として、市、県主催の研修に参加している。

園内研修としては、先ほどの不適切保育のほか、事故対応・嘔吐処理等の危機管理、感染症対策、エピペンの使い方、救命救急の仕方等の研修がある。

これは法人として、毎月の全職員でおこなう会議の際に、必ず一つ同じ研修を実施すると決めているため、8園全園において、一斉に園長から下ろしていく形で実施している。

その他、おむつの取りかえなど作業的になってしまうことについて、法人として大事にするべきことを統一するため、各園長8人が集まって動画を作成し、採用内定者研修や新人研修の際に使用している。

【齊藤 勝雄 委員】

施設整備計画について伺います。

施設整備に多額の投資をいただく中で、地元経済の活性化及び雇用促進につなげていただくため、募集要項に「市内業者を活用するよう努めること」と記載している。

建築工事、設備関係、工事に伴う警備、備品購入とある中で、市内業者、いわゆる市内に本店がある業者の活用方法について、現時点で具体的な考えがあれば教えていただきたい。

【担当者】

入札となるため、現時点において大したことは言えないが、物品等のクオリティーが担保できるのであれば、積極的に市内業者にお願いできたら一番いいと考える。

【齊藤 勝雄 委員】

それは基本的に元請けとして、市内業者を活用するという点でよろしいか。

【理事長】

そのとおりである。

また、今現在、他市で運営している施設においても、その市から同様の要望を受け、市内業者を積極的に活用している。

【小平 修 副委員長】

プレゼンにおいて、小学校就学前に必要な体験をしてもらうという説明があったが、具体的な内容をお伺いする。

【理事】

小学校連絡協議会に参加した際に、就学に向けて学校側から求められることの中では、自分のことは自分でできることが一番に求められる。

また、自分の名前だけでも書けるようにとも、よく求められるため、3歳児から迷路やひらがなのなぞり等遊びの中に少しずつ鉛筆を取り入れ、5歳児の制作を毎月飾る際に自分で名前を書くようにすることで、卒園時には、自分の名前が書けるようにしている。

また、楽器が苦手な子もいるため、保育園にいるうちに触れられる環境を作っている。生活発表会において、鍵盤ハーモニカで「きらきら星」などを保護者に披露することで、子どもたちの自信につなげられるようにしている。

そのほか、縄跳び、跳び箱、マットなど、乳児の時よりも、さらに体を使った運動・遊びを取り入れるが、発達に個人差が生じるため、無理なく、楽しく進められる形で実施しており、小学校の授業で実施するだろう項目を、先に保育園において少し触れている。

これらは、苦手にならないようにおこなうことが大前提である。

45分間の授業中、ずっと座ってられるようにともよく言われるが、「座っていなさい」と言わなくても、子どもが集中して取り組める姿勢を育てていきたい。

日頃の生活の積み重ねで、いつのまにかできるようになっていたということが、私たちの一番の目標であり、そのような保育を進めている。

(3)法人C

【法人C】

応募資料に基づき、プレゼンテーションを実施。

【近藤 明美 委員】

保育内容について、2点ほどお伺いする。

1点目、自己肯定感を大切にした保育をおこなっているとあったが、今現在、法人でおこなっている保育の特色について、その実施の理由や方法についてお聞きしたい。

もう1点、大久保第二保育所の保育を継承することについて、法人の考えをお聞きしたい。

【理事長】

保育の特色については、月に2回、ネイティブのカナダ人の先生にお越しいただき、英語遊びをおこなっているが、基本的に、「子どもは子どもらしく」というところで、遊びをとおして、子どもたちの学びにつなげていくことを心掛けているため、特色があまりないのが特色かと考える。

次に、大久保第二保育所の保育の継承については、「郷に入っては、郷に従え」ではないが、実際に通われている子どもたちが、運営法人が替わることによって混乱することのないように、今おこなわれている保育をベースとした中で、当法人が色づけできるものがあれば加えていくという考えであるため、まずは、今おこなっている保育を教えていただきながら、引き継いでいこうと考えている。

【篠宮 淳一 委員】

特別に支援を要する子どもの保育について伺います。

1人の受け入れ実績があるとのことだが、本市においても、支援を必要とする子がいた場合には、職員体制を整えて受け入れていただけるという理解でよいか。

【理事長】

習志野市においても、同様に職員体制を整えるとともに、関係機関とも協力をし、その子にとって、よりよい保育ができる環境を整えたい。

【篠宮 淳一 委員】

他機関との連携を図ることについて、相談以外で具体的に連携を図っていることがあれば、教えていただきたい。

【担当者】

私の園ではあるが、支援が必要な方が通所する市施設の先生と連携し、月1回、巡回保育で来ていただき、その子にとってのよりよい方法や私達が困っていることについて、お話をさせていただいている。

そのほかの巡回支援も活用し、特別に支援を要する子以外の子に対しても、積極的に連携をしている。

【中川 裕子 委員】

関係機関及び地域との連携・交流についてお聞きする。

先ほどのプレゼンにおいて、これから地域の方を招いたり、小学校との交流を考えているとあったが、現在において、地域や近隣の学校等と連携している実績があればお聞きしたい。

【理事長】

コロナ以前の話となるが、地域との関わりという部分で申し上げますと、地元にあるJリーグクラブとの交流、子どもたちにサッカー教室を開いていただき、子どもたちからお礼の手紙や絵を描いて、選手にプレゼントするという交流をおこなっていた。

また、地域の方々とは、夏に園でおこなう夕涼み会、夏祭りをおこなう際に、近所のまだ保育園に通われていない子どもにもお声がけをして、一緒に参加をしていただくことをおこなっていた。

近隣の小学校については、就学前に、一年生からご招待いただいて小学校に訪れ、ふれあい会のようなものをおこなっている実績がある。

現在、コロナ渦になってからは、それらも中止となっているが、またできるような環境を整えることができれば、積極的におこなっていきたい。

【竹田 佳司 委員】

延長保育・特別保育について伺います。

あくまでも地域ニーズを見てという提案であったが、現在、認可保育所5箇所、小規模事業所1箇所の実績として、延長保育は19時までということであったが、一時保育・休日保育の実績についてお伺いする。

【理事長】

延長保育は、すべての園で実施しており、通常保育終了から1時間実施している。

保護者のライフスタイルに合わせて、要望があれば延長保育の時間を伸ばすことも考えている。

一時保育については、地域の方々のリフレッシュであったり、月極での保育園利用に満たない方々の要望があり、現在、法人としては、一園で実施している。

コロナになってからそれほど要望はないが、卒業式シーズン等に利用したい地域の方々がいらっしゃるため、月平均1人・2人という実績である。

【竹田 佳司 委員】

配置計画図を拝見すると、一時保育室が2階に配置されている。

現在、一時保育を実施している施設において、どこで、どのように実施されているのか。また、習志野市においても一時保育を実施いただけるのであれば、園庭への行き方など、少し具体的な実施方法をお聞きしたい。

【理事長】

既存の園でも、2階に一時保育室を設置している。

一時保育担当職員がいるため、大きい子であれば階段の上り下りに問題ないが、0歳児、1歳児の複数人を預かる場合は、担当職員だけでは難しいため、災害時も同じであるが、事務室にいる園長、主任、事務員3人の手を借りたり、フリーの職員が階段の上り下りなどの配慮が必要な場合にはサポートに入り、支障がないような体制をとっている。

今回、大久保第二保育所の移管を受けさせていただく場合には、同じ対応をとりたいと考えている。

【竹田 佳司 委員】

施設の配置計画の特徴的なところで、敷地面積はそれほど大きくないが、駐車場30台とある。

園庭と駐車場を比較したとき、既存園においても、この程度の駐車場が確保されているのか。

【理事長】

何分、土地勘がなかったため、送迎に必要な駐車場台数がわからず、ちょっと多めに設計している。

事前質問もいただいたが、もし駐車場台数が10台程度で収まるのであれば、その部分を園庭や保育室に広げるなど、子どもたちが過ごしやすい環境を整えられるように考えている。

【田島 大輔 委員】

職員の研修について、3点お伺いする。

急激に事業拡大されているため、若手の職員が多いと考える。資質における非常に大事な部分であるため、研修の前提として、会議の持ち方について、勤務時間外、ノーコンタクト、どのような形でおこなっているのか。

2点目、自己評価の考え方について、今、360度評価が求められている中、施設長及び保育者の評価方法を、法人として、どのように考えているのか。

3点目、研修計画について、すごく自由で、保育者任せな保育と感じた。

保育者主体は非常に重要である一方、個人任せに見える印象もある。

応募書類にはOJT中心の研修が羅列されており、一人ずつ技術獲得するような研修が多いように感じた中でいうと、保育者の一人一人の力量形成、もしくは保育園としてどのような保育がしたいかという専門性の向上において、非常に見えにくいと感じるため、現状の研修計画はどうなっているのか。

会議の持ち方・ノンコンタクトタイムについて、自己評価について、研修計画の持ち方について、説明いただきたい。

【理事長】

まず、会議につきましては、どこの園も午睡の時間を利用して実施している。

その会議の持ち方については、正職員を集めて会議をおこない、その間は、パート職員に午睡を見守っていただく。その後、パート職員に内容を共有していくという会議の手法をとっており、全部、勤務時間内に実施している。

自己評価については、年2回、中間と最終という形で実施し、自己評価を基に所属長との面談において、フィードバックする方法をとっている。

研修計画につきましては、応募書類には、感染症対策、嘔吐処理といった個別スキルの研修を多く記載しているが、同時に、キャリアに応じた研修も実施している。

まだ年数を経験している職員が多くないため、まずは新人教育という部分になるが、当法人で工夫していることは、1年目職員の研修講師を2年目職員が務め、2年目職員の研修講師には3年目職員が務めている。

1年先輩が研修講師をすることより、「自分でも手が届く」というような、ちょっと先の目標を見せることで、徐々に職員が成長できるようにしている。

【田島 大輔 委員】

補足説明をお願いしたい。

1番目のノンコンタクトタイムは実現できるのか、できないのか。

休憩等の体制づくりの部分で、職員配置・採用計画にも関わるが、現計画では厳しいのではないか。

2番目の自己評価については、360度評価。保育者側から施設長がどういう評価を受けているか。

3番目の研修計画は、現状においては、多分妥当だと考えるが、公立からの移管である。公立にはたくさんのベテラン職員がいる中で、対策は何か考えられているか。

【理事長】

職員配置については、我々の事前準備が整っていないで申し訳ない。現状、配置基準に合わせて記載しており、実際の運営ではプラスアルファの職員を配置する。

既存園では、必ず代わりが入り、休憩がとれるような体制をとっており、習志野市においても同様にプラス3の職員は必ず配置する。

【担当者】

施設長評価については、先日、実施したところである。

お話にあったとおり、施設長陣が若いことは確かであり、一般職員からの管理者、幹部にあたる者の評価が必要と考え、本年度より実施している。

昨年度までは、そこまでには至っていなかったということが事実である。

やはり、ベテラン職員を輩出するには、長く勤めていただく職員が1人でも多くいることが大前提となるため、もちろん子どもたちへの保育の資質も大事ではあるが、職員が働きやすい環境を整えるという意味でも、今いる施設長、主任が、若い職員から見てどうなのかということ、今年度より重きを置いて実施したばかりである。

評価内容としては、日々の振る舞い、ハラスメント行為、園長としての資質に関してまで、厳しく実施している。

【齊藤 勝雄 委員】

貴法人は他市を拠点にして保育事業を展開されているが、本市との縁といった、何か特別なものがあるのか。

【理事長】

正直に申し上げて、習志野市との縁はない。

ただ、プレゼンでも申し上げたが、千葉県に来る機会があった中で、習志野市の印象が、地元と環境が似ており、都市部と郊外というところで、地元でも少し行くと緑が多く、子どもたちがイチゴ狩りに行くことができる。

習志野市も、同じ保育ができるのではないかとの考えのもと、応募した。

【齊藤 勝雄 委員】

施設整備に関して伺います。

この施設整備に当たり、多額の投資により事業を進めていただく中、地元経済の活性化、雇用促進につなげたいことから、募集要項に市内業者の活用について記載した。

実際に工事を施工する上で、建築、設備関係、工事に関する警備、備品購入等が必要となるが、市内に本店を置く事業者、いわゆる市内業者の活用方法について、現時点での法人の考えをお伺いしたい。

【理事長】

工事は入札になるが、地元の既存園においても同様に、できる限り市内業者を活用してきた。

実際、既存園の建築業者との関係性もあるが、やはり遠方から呼ぶとなると、運搬費等が高くなるため、我々としてもできれば、市内業者で進めたいと考えている。

【齊藤 勝雄 委員】

基本的には、市内事業者を元請として発注するという考えであると理解してよいか。

【理事長】

そのとおりである。

【小平 修 副委員長】

先ほど、貴法人の地元と本市が似ているとあったが、環境が似ているからこそ生かせる貴法人の特徴について伺います。

【理事長】

都内駅近ビルにある保育園が、対極のイメージとしてある。

当法人は、子どもたちが自然の中で、夏はセミの抜け殻探し、秋はドングリ拾い等の四季を感じることに重きを置いている。

緑が多いことで、郊外遊びにおいて季節の移り変わりを感じられる保育が展開でき、保育の内容に関する全体的な計画に反映できるという部分が似ている。

【小平 修 副委員長】

保育方針の説明において、自己肯定感につながるような関わりを大切にしたいとあったが、大切にしている取り組みがあれば、具体的に教えていただきたい。

【担当者】

保育理念にある「子どもの限りない可能性を引き出す援助を行う」というところが、自己肯定感のすべてに繋がると考える。

保育理念に基づいた全体的な計画には、要所に自己肯定感につながる計画を立てるため、いろいろな言葉を用いて記載している。

職員に関しては、日々の保育、月案・週案、また私との対話の中でも、子どもの自己肯定感の高める言葉かけについて、みんなで話し合っている。

【小平 修 副委員長】

保育目標に「否定的な声かけはせずに」との記載があるが、会議等でその言葉かけは適切か否か、ケースごとに判断しているのか。

【担当者】

若い職員がいると否定的な言葉を使ってしまう。

一番代表的な否定の言葉が「駄目」であるが、その言葉を使わない言い方に、「走っちゃ駄目」ではなく「歩こうね」と言おうと、気付くたびに話し合いや声かけをすることで、否定的な言葉を使わないようにする雰囲気が出てくる。

実際、私が勤務する園においては、「駄目」という言葉を使う職員はいない。

(4) 法人D

【法人D】

応募資料に基づき、プレゼンテーションを実施。

【近藤 明美 委員】

保育内容について、2点伺います。

まず1点目、特色のある保育について、たくさんの内容を説明いただいたが、実施するに至った理由、実施方法、年齢や頻度をお聞きしたい。

2点目、大久保第二保育所の保育の継承について、具体的にどのように進めていこうと考えているのか。

【担当者】

まず、特色あるカリキュラムについて説明する。

英語は0歳児からおこなっており、0歳児は、英会話ではなく、音楽を通して聞く耳を育てる、英語が自然に流れる環境をつくっている。3歳以上児では、英語講師が、ハロウィン、クリスマスなどに季節感や文化を感じられる内容を含めた授業をおこなっている。

次にダンスは、3・4・5歳児を中心におこなっており、リトミックは、どちらかというと3歳未満児で、リズムに合わせて体を動かすところから始めている。

体操・サッカー教室も、3歳以上児が中心である。

あまりおこなわれていないICT教育カリキュラムは、特に4・5歳児が中心である。

最後に、「「歴女」・「歴男」を育てよう」であるが、本部職員の歴史専門家が実施しているもので、各園に出向き、子どもたちが興味を持ちそうな題材の絵本や映像を利用し、お話をするものである。

これらは全て実施するというのではなく、保護者の意見を取り入れ、その園にあったカリキュラムを、日々の運動や自由な遊びの時間を崩すことなく取り入れている。

【施設長予定者】

私は現在、グループ園の3歳以上児クラスの担任をしており、現状の具体的な様子をお伝えする。

まず、英語について、0歳児では、英語教室の講師が、歌ったり踊っているところを見ることで、子どもたちもリズムを取ったりし、体で楽しむことから始めている。

1歳・2歳については、季節の行事などは講師が工夫してくださり、例えば、ハロウィンであればお化けを題材にして、「Go away!! (あっち行け)」というやりとりをするなど、遊び感覚で楽しませてくれている。耳で聞くことも大切であるが、体を使って、本当に楽しく進めてくださっている。

体操教室では、自分の体を安全にどう動かすかということ学ぶことができる。安全に参加できるようにするため、子どもたちにルールがあることを伝えている。

また、応募書類には記載していないがアート教室もある。生き物好きなアートの講師が飼育しているいろんな種類のカエルや3色のウズラ等を連れてきて、子どもたちが見てかわいいと感じ、自然と描きたい気持ちになってクレヨンや絵の具で描く。興味を持つことで遊びに入っていくやり方をしてくださっており、とてもいいと感じている。

【理事】

大久保第二保育所の保育の継承については、移管先として選定された場合には、当然、習志野市の保育内容・研修等を、引き継ぎ期間中に、本部を巻き込み、全員で習得し、引き継ぎできるようにしたい。

【篠宮 淳一 委員】

特別な支援を要する子どもの保育についてお伺いする。

支援が必要な子どもの受け入れについて、どのように考えているか。また、その受け入れ体制についてもお伺いする。

【施設長予定者】

現在、担任をしているクラスに、加配認定を受けた特別な支援を要する子が2名いる。

2名それぞれの興味があることや他人との関わり方に多様性があり、配慮の仕方も異なってくるため、常に一緒に同じことをするのではなくその場に応じた、別室で保育することもあれば、同室でテーブルを分けるなど環境を変えている。

例えば、絵の具で絵を描く際、同室で別のテーブルにいる要支援児たちは、体中を絵の具でべちよべちよにして遊んでいる姿も見受けられる。

環境に主体的に関わる様子は、子どもにより違うため、それぞれの最善の利益を考え、環境を整えるよう努めている。

また、クラスの子どもたちは、多様な個性に接しているため、理屈ではなく感性でとら

えていると感じる。

互いに影響を受けており、要支援児は入園時と比べ食生活や身の回り片づけなどに成長が見受けられ、クラスの子どもたちは、当初は、要支援児に対する戸惑いもあったが、自然と言葉をかけるようになり、いろいろなことを受け入れる姿が見受けられる。

要支援児に愛情を持ち、丁寧に、温かいまなざしで見守って援助する保育者の姿を目標にすること、また、幼少の頃より、多様な個性を持つ子と触れ合うことで、互いを認め合い、すべての存在を尊重する姿に繋がっていくのではないかと考える。

インクルーシブ保育(包括的保育)を実現することで、私どもの目指す子ども像「思いやりのあるやさしい子」の実現が可能だと考える。

以上のことから、特別な支援を必要とする子どもを受け入れる気持ちはある。保護者との連携はもちろん、習志野市と専門機関の指導を受けながら進めていきたい。

【中川 裕子 委員】

関係機関及び地域との連携・交流について伺います。

今現在、地域や近隣の学校等と連携している実績があれば、お聞きしたい。

【理事】

通常、年3回ほど、小学校と連携している。

5歳児担当の先生と小学校の先生が連携し、運動場で一年生と一緒に軽く運動して遊んだり、校内・授業の様子等を見学したり、事前に計画して実施していた。

コロナの影響で実施できず、子どもを連れて、小学校はこんな感じだよという外からの見学はおこなっている。

【中川 裕子 委員】

地域との交流はあるか。

【担当者】

グループ園としては、商店街にお買い物へ行こうということで、事前に打ち合わせし、子どもたちが買い物に行くことを実施している。

また、ハロウィンの時期に仮装して近隣を回り、お菓子をいただくといった支援をいただいている。

最近では、なかなか交流ができていないが、老人介護福祉施設にもお邪魔し、園児が歌ったり、合奏したりといった実績がある。

【竹田 佳司 委員】

延長保育と特別保育について伺います。

法人グループとしては、非常に多様な保育ニーズに対応していると率直に感じた。

現状、延長保育、一時保育さらに休日保育についての実績をお聞きしたい。

【施設長予定者】

今現在、私が勤務する園において、一時保育、定期利用保育、休日保育、祝日保育を実施している。

また、延長保育については、今年度は平日21時まで、来年度は20時までとなるが実施している。

【竹田 佳司 委員】

地域ニーズに応じてという提案であった。

配置計画図には一時保育室が見受けられないが、地域ニーズに応じた見直しを検討いただけるのか。

【理事】

配置計画図については、一番初期の構想である。

広さも十分あるため、一時預かり保育、特別な支援を要する子どもを預かる部屋なども考えていきたい。

【田島 大輔 委員】

職員の研修についてお伺いする。

1点目として、先ほどから「グループ園」という言葉が出てくるが、運営している認可保育所は1つであり、認可外保育施設や小規模保育事業所と今回応募いただいた認可保育所では規模が違いすぎるが、どのように考えているのか。

また、研修以前の問題として、既存園と比べ職員数が大変多くなるが、会議の持ち方、ノンコンタクトタイムについて、どのように実施するのか。

応募書類には、研修内容の職員間の共有という記載があるが、今後の展望についてお聞きする。

2番目、認可外保育施設や小規模保育事業所であれば基準も違うが、認可保育所もしくは公立保育所からの移管とした場合の保育士の自己評価、園としての保育所保育指針に則った保育の評価について、どのような考えを持っているのか。

3点目、専門的な事項の外部講師が多いことは、特色ある保育として非常に大事である一方で、保育所保育指針や私立化する大久保第二保育所が求める保育に対する研修をどのように考えているか。

現在における法人の考えをお聞きしたい。

【担当者】

大久保第二保育所は、当グループで運営する認可保育園の倍ぐらいの規模である。

研修については、作成した年間計画に沿って研修を受講できるようにする。

外部研修だけではなく、園内研修も充実させる必要性を感じている。実施場所や時間の観点から外部研修に拒絶反応を示す職員も多にいるが、園内研修により、外部研修で得た情報を少しでも職員におろせるようにしていきたい。

また、職員から受講したい研修の要望が、園によっては年3回と多くあり、そちらに関してもできる限り受講できるよう支援していく。

【理事】

移管後の新施設の定員を147名とすると、職員数もグループ園と比べ倍近くになり、全員一緒に研修は、当初は無理だと考えている。

先ほど申したように、引き継ぎ保育を大いに利用させていただき、そこで学んだことを持ち帰り、他の職員に共有させていただきたい。

新施設が開園してからの研修については、2回に分けるといった手段が必要になると考える。

また、職員会議などを利用した発表、回覧簿を作り、全職員が目を通した後に、皆で考えや意見を持ち寄る機会を作りたい。

自己評価については、評価表により年2回、上期・下期で実行している。

その実行評価に基づき園長が面接をおこない、今の課題、今後の方向性の評価に繋げていきたい。

【田島 大輔 委員】

応募書類に記載した事項をどう実行するか考えて行く余地があると受けとめさせていただく。

最後に、特色ある保育としてはとても面白いと感じたが、大久保第二保育所は、保育所保育指針及び習志野市のガイドラインに沿った保育をおこなっている。その移管を受けるにあたり保育の専門性の向上に関する研修についての考えをお聞きしたい。

【施設長予定者】

自身のことになるが、習志野市の非常勤職員として働いた経験がある。

新規採用職員が定期的に研修を受ける姿、自分が働いていた保育園での外部講師を招いた研修など、現場中心の研修であることに、とても感銘を受けた。

保育所保育指針に関する研修については、日々の保育で、保育者が頭を悩ます事例を取り上げ、職員が忌憚ない意見を出せるように工夫しながら対処方法を考えていく。

そして、意見が食い違った際に立ち返るところが保育所保育指針だと考える。

そういう研修を繰り返し、保育所保育指針を中心とした質の向上を図りたい。

【齊藤 勝雄 委員】

施設整備に関することをお伺いする。

資金計画書の支出の部にある「その他」の項目に、1,500万円が計上されているが、具体的な内容を教えていただきたい。

【理事】

職員採用及び開園前から研修をおこなうための人件費等々を当てている。

【齊藤 勝雄 委員】

いわゆる箱物をイメージしたが、違うのか。

【理事】

失礼した。

園庭の遊具、築山、ジャブジャブ池といったものも作りたいと考えている。

やはり自然の中ということで、実のなる木などの植栽、ジャブジャブ池は、夏場は水を張るが、冬場は水を抜いて、落ち葉等々で遊べるような環境を作っていきたい。

この1,500万円は、その費用として計上している。

【齊藤 勝雄 委員】

総括的な話として、施設整備に当たり、地元経済の活性化・雇用促進という観点から、市内業者の活用をお願いしているが、現時点における、市内業者を活用する具体的な方法についてお伺いする。

【理事】

具体的な方法については検討しているが、特殊施設であるため指名競争といった部分で考えていける。

(5) 法人E

【法人E】

応募資料に基づき、プレゼンテーションを実施。

【近藤 明美 委員】

保育内容について伺います。

先ほど、遊びをとおして、職員の個性を生かした外国語に親しんでいるとあったが、具体的に実施に至った理由、実施方法についてお聞きしたい。

2点目、大久保第二保育所の保育の継承について法人の考えを伺う。

【担当者】

1点目の遊びをとおした外国語については、若い法人であり、先生たちの特技を生かす方法は何かを考えた際、その考えに至った。

外国語を話せる先生に、遊びの中で生かしてみないか尋ねた際に、やってみたいと答えた先生たちにより実施している。

今回、目立ってわかりやすい外国語を例に挙げたが、中には、制作、リトミック、体操遊びなど、先生方一人一人にある個性や得意なものを存分に発揮できる環境をつくっている一環として紹介した。中には、どうしても得意な体操をしたいと正課体育の指導員に交じり、日々楽しみながら、子どもたちに体操を教えている保育士もいる。それぞれの得意なところを生かし、子どもたちに、いろいろな楽しみがあることを伝えてもらいたいと考えている。

今回の私立化については、これまで培ってきた歴史や地域との関わりがある中で、急激に変わると戸惑い等が生じるため、私たちの主張だけをするつもりはなく、「郷に入れば」ではないが、まずは、元からあるものでトライさせていただくことにより継承させていただく。

当法人自体ができて5年、6年であり、私たちが見えていなかったもの等を気づかせてくれる、いわゆる温故知新であると考えている。

しっかり引き継いでいく中で、少しずつ、当法人のよさも合わせてブラッシュ・アップしていきたい。

【篠宮 淳一 委員】

特別に支援を要する子どもの保育について伺います。

支援が必要な子どもの受け入れについて、どのように考えているのか。また、受け入れ体制についても伺います。

【担当者】

支援が必要な子どもについては、今現在の実績として、ダウン症の子どもを2園でお預かりしている。

当法人には保育に関する専門家がたくさんいるが、特別な知識については、勉強しても至らない点があり、専門機関や各市の専門職に来ていただき、教えていただきながら関わりをおこなえるようにしている。

また、今後、医療的な支援が必要な子どもの受け入れがあると想定している。現状、当法人内における実績はないが、もしも今後、受け入れることとなれば、何を、どこまで、どうやったらできるか、ということ法人内で検討しながら受け入れていきたい。

実際に、私が施設長を務める園においても、急遽、市からダウン症の子どもを預かってほしいと相談があって受け入れている中で、保育者も学ぶことが多く、園において、どのような保育がその子にとっていいのか相談しながらおこなっている。

知識だけではない、子どもが保育者に返してくれるものが多々あることから、どうすれば安全にお預かりできるのかを考えて対応していきたい。

専門の方と上手く連携して進めていければと考える。

【中川 裕子 委員】

関係機関及び地域との連携・交流についてお伺いする。

今現在、地域や近隣の学校などとの連携の実績があれば、お聞きしたい。

【担当者】

今現在はできない状況にあり、過去の実績でお答えする。

小学校との連携では、入学予定の子どもの家庭に、小学校の運動会、発表会等に足を運んでみてはいかがですかとアナウンスしたり、園で校内見学させていただいたりした実績がある。

事務的なところでは、保育要録を小学校にお渡しする際、基本的には直接持ち込み、気になる子どもであれば、しっかり連携できるよう口頭で内容を伝えている。

地域との交流では、各園の立地柄でまちまちではあるが、例えば、近隣に高齢者施設がある園では、施設と交流できればと考えていた矢先にコロナ渦となり実施できていないが、園舎建築の際に、施設に挨拶に行っており、落ち着いたら交流を図りたい旨の話をしている。

また、自治会がある地域では、自治会に参加しており、地域のお祭りや消防団と交流させていただいており、変わったところでは、自治会から声をかけていただき、スーパー銭湯のような地元のお風呂屋さんの湯船に子どもが描いた絵を浮かべて、敬老の日を祝う催しに参加した。

小さいところ言えば、近隣で商店を営む方にサンタクロースになっていただくといった交流もしている。

職員に紐づくところでは、警察署には宮城県で痛ましい事件があったことから、意識を高めるための防犯研修を、消防署には消火訓練を依頼しているが、コロナが落ち着いたらという話になっている。

【竹田 佳司 委員】

延長保育と特別保育について質問する。

他市において複数運営する保育園における実績及び大久保第二保育所の移管先となった場合の予定ということで、現状における法人の考えをお伺いする。

【担当者】

まず、実績について、延長保育は、すべての園で実施している。こういった世の中であり、延長保育を必要とする家庭はたくさんあるため、必須であると考えます。

また、法人内の一園のみであるが、市の要請を受け、休日保育を実施しており、他の園に関しても、要望等があれば、前向きに検討していきたい。

一時保育等の実績はないが、大久保第二保育所の移管を受けた場合に、その要望があれば対応できるよう、配置計画図上に多目的室として、一部屋多く用意している。

一時保育の要望がなければ、多目的室のまま使用することも考えており、もし必要される家庭が多い場合は、対応できる体制を整えていきたい。

【田島 大輔 委員】

職員の研修については、大ざっぱな括りで読みづらい部分があるため、研修計画を具体的に教えていただきたい。

2点目、研修の基礎となるノンコンタクトタイム、会議の持ち方について、法人設立が若いということだが、職員数に対応して、どのように行われているのか。

3点目、自己評価することが大事と考えるが、「多様性を大事にする」、「正課体育を大事にする」とあり、特色ある保育としては問題がない一方で、公立からの移管として、保育所保育指針に則った保育が求められる。その保育の専門性の確保について、自己評価などでどのようにされているのか。

【担当者】

まず、具体的な研修については、年間を通して研修計画を立てている中で、法人が先生方に実施している研修として、まず、入職前の全員を対象に、一般的な社会マナー、保育に対する考え方、救命救急等がある。

救命救急の研修については、その後も定期的に実施することで、いざという時にすぐ対応できるようにしている。

また、プールの前であれば、水に対する約束事や注意すべきこと、園外保育時の注意すべきことなど、日常の保育に紐づく研修を実施している。

専門性を高める研修としては、キャリアアップ研修においても、職員がそれぞれ参加し取得している状況であるが、取得して終わりとするのではなく、園内研修等の機会に取得した内容を他の職員にフィードバックしてもらい、全員がある程度認識できるような場を設定したり、市主催の研修等に参加した職員が、他の職員にフィードバックする体制を整えている。

その研修をどのように実施するのかについては、各園により異なっており、土曜日に実施する園もあれば、午睡の時間や保育後の夕方に実施するなど、各園の生活習慣等勘案し、判断を任せているというのが実情であり、実施方法より、きちんと伝えることに重きを置いている。

次に、自己評価については、園自体の自己評価を、年度終わりに実施している。

また、職員に関しては、法人が保育士に求める事項を羅列した人事考課シートに、職員が自身の目標を記載し、その後、四半期に1回、目標に対する状況や困っていることなどを、年間を通して役職者と面談していき、最終的に、年度末にシートを用いて法人が求めることを一緒に自己評価する形で実施している。

【田島 大輔 委員】

研修については、まだ暫定的であると捉えてよいか。

法人としての方向性、組織的な実施ではなく、各園で暫定的におこなっていることが多いという理解でよいか。

【担当者】

どちらかというと、そういった認識になる。

子どもたちを守ることは当然として、同じように先生たちの生活もある中で、どのような

方法でできるかを考えながら実施している現状である。

【田島 大輔 委員】

先ほど述べたように、正課体育などで多様な人材を登用することは、特色ある保育において重要であるが、保育内容という点における研修をどのように実施するかも重要と考えるが、その部分については、今後検討するという事によろしいか。

【担当者】

改定された保育所保育指針において、今までの小学校がゴールというところから、子どもの人生という考え方に、ある意味で、小学校も通過点になったと私は認識している。

各園の裁量に任せ、計画立てた研修に至っていないが、風通しのよさはあり、先生たちから保育に関する質問や相談があった際に伝えたり、どの園においても午睡の時間に、週1回程度、各学年で集まり、子どもたちの様子や保育の仕方などを話し合う時間を持っており、そこに園長や主任が入って伝えている状況である。

【齊藤 勝雄 委員】

まず、少し角度を変えた質問をする。

貴法人は他市に拠点を置いて保育事業を展開している中、今回、本市に進出されたいということだが、本市とのゆかりはあるのか。

【担当者】

当法人の代表から、童心の頃から一緒にいた方が習志野市に在住しており、今回、この公募を機会だと思い、スタートを踏み切ったと聞いている。

【齊藤 勝雄 委員】

次に、施設整備について、かなりの額を投じて整備していただくことになるが、私どもとしても、地域経済の活性化、雇用促進につなげたく、募集要項に、市内業者の活用を記載した。

工事の施工、備品購入に際し、市内に本社を置く事業者の活用方法について、現時点における法人の考えについてお伺いする。

【担当者】

募集要項上に市内業者の活用についての記載があることは認識しており、代表も認識している。

その上で、具体的にどのようにするか、代表とは具体的な話に至っていない。

【小平 修 副委員長】

大久保第二保育所の私立化に応募した一番の理由、ここに惹かれたというものがあれば教えていただきたい。

【担当者】

当法人はどちらかというと、たまたま今の場所で広がりを見せているだけであり、チャンスがあれば掴みたい部分はある。

そういう状況の中、たまたま縁があった、代表としても、よく見聞きする習志野市で、やってみたいという思いがあったのではないかと推察する。

【小平 修 副委員長】

次に、園内調理という説明があったが、その献立はどこで、どのような方が作るのか。

【担当者】

給食専門の委託業者が入っており、その業者にいる管理栄養士が作成した献立を元に、各園内で調理員が調理している。

各園には、委託業者から栄養士を配置いただいている。

また、委託業者の栄養士がよく来てくださるため、食育に必要なことを相談したり、時には、子どもの前に立ち、給食のお話をいただいている。

【小平 修 副委員長】

私どもの公立保育所では、各施設に栄養士がいるため、地元名産の野菜を使ったり、子どもたちや保護者の要望を聞き入れた献立にしたりと柔軟な対応ができる。

その公立保育所の移管となるが、同様の対応は可能か。

【担当者】

遠慮なく言っていただきたい。

毎月必ず、給食会議を各園で実施しており、その際に、地元野菜の使用や保護者の意見を伝えていただければ、もし仮に、同じ委託業者に入っていただくこととなっても、柔軟に対応してくださるものとする。

【田島 大輔 委員】

指導監査において、前回と同様の指導事項が非常に多い理由をお聞きしたい。

【担当者】

純粹に対応が遅かったということであるが、前年度の監査で指導いただいた内容に関しては、今年度にすべて修正し、クリアしている。

監査で教えていただくことによって、新たに知識として蓄え、変わっていくチャンスだと考えるため、もし、当法人が移管先となるようであれば、監査の際は、遠慮なく指摘いただきたい、よりよい法人となるよう教えていただきたい。

(6) 社会福祉法人習志野

【社会福祉法人習志野】

応募資料に基づき、プレゼンテーションを実施。

【近藤 明美 委員】

保育内容について伺います。

応募書類に「創意工夫による特色ある運営」とあるが、その特色ある保育の実施の理由、実施方法について伺います。

もう1点、大久保第二保育所の保育を継承することについて、法人の考えをお聞きしたい。

【飯塚 源太 理事】

創意工夫ある保育内容については、外遊びや植物の栽培、劇などの表現遊びなど具体的なことをしながら、子どもたちの豊かな成長を担保していくほか、排せつや衣服の着脱、食事から時間を意識した行動に至るまでの基本的な生活習慣、基本的なことをすることも大事である。

ただし、行事も非常に大事であり、ただ漫然と生活していると、時間的に近い部分しか意識できないところがあるが、例えば発表会となると、ひと月のタイムスパンで目標に向

かうよう子どもたちの意識を持っていき、本番で保護者に見てもらおう。そして、終わった後に振り返ると遊びになる。ある程度の長期的なスパンで物事に取り組むということ、初めて学ぶことになる。

幼稚園・保育園の業界で有名なマシュマロ実験、1個のマシュマロを食べてもいいが、先生が帰ってくるまで我慢できたら、2個あげるという実験がある。2個もらう子どもと1個だけ食べる子どもそれぞれが、将来どうなるか追跡すると、収入、犯罪歴などのいろいろな面で、先を見越すことができ、マシュマロを2個もらう子のほうが幸せになれるというものであり、どれだけ長期的に物事を見られるか、考えられるかが大事で、その第一歩として、行事の取り組みが非常に重要である。

また、昭和40年代ぐらいの本にしかない、オープン保育という学年の壁を取り払い、各教室にいろいろな遊びのコーナーを設けて、子どもたちがそこで自由に遊びを選択する保育方法がある。友達2、3人と一緒に、「塗り絵がしたい」、「外遊びがしたい」、「ビーズを作りたい」といった友達間での意見の葛藤を乗り越え、好きなところを回って行く。遊びの選択という中においても、非常に社会性、創造性が養われる特色がある。幼稚園では週1回、本当に全学年取り払って実施しているが、保育園では、0・1・2歳児には安全性に問題があるため、上の学年だけで実施している。

大久保第二保育所の保育の継承については、保育所保育指針、習志野市就学前保育一元カリキュラムといった大前提があり、その範囲内での活動が基本だと考える。その中で、大久保第二保育所に現在、通われている方のスムーズな移行、活動が今までと丸きり変わってしまうことは、子ども・保護者にとってもよくない観点があり、基本的に大久保第二保育所でやっていたことを踏襲していきたい。

【篠宮 淳一 委員】

特別に支援を要する子どもの保育について伺います。

ひまわり発達相談センター・保育園・保護者の三者でタッグを組んでとあったが、大久保第二保育所の移管を受けた場合においても、同じ体制を整えて、受け入れていただけるという理解よいか。

【飯塚 源太 理事】

職員配置の予算といったところが、私立幼稚園と大分違うということ、保育指導委員会に参加させていただいた際に感じたところである。

幼稚園では、特別な支援が必要な場合、まず人をつけてしまう。予算的なことは後から考えるところがあるが、保育園の場合は、今いるメンバーでまず頑張り、どうしてもという時に保育指導委員会で審議いただき、財源を確保するという順番なのだと感じた。

予算どおり、または、それ以上に財政的な余裕がない運営は考えておらず、私立保育園であっても、ある程度のりしろがあると考えるが、先行して職員を配置することが常にできるとは、この場では言いづらく、また、現在、通っている子どもの中に、特別な支援を要する子がどのくらいいるかによっても変わってくる。

結論から言うと、公立保育所よりは、タイミング的な部分で、少しいい感じにできるが、最終的な人数でいうと大差はないということが今の感じで、すごくよくなるというわけでも、すごく悪くなるというわけでもないと思う。

【篠宮 淳一 委員】

プレゼンの中で、「あまり、ひまわり発達相談センターなどに頼りすぎても」とあったが、自分たちで頑張るといような、具体例があれば教えていただきたい。

【飯塚 源太 理事】

私の言い方で誤解があったかもしれないが、あまり、おんぶにだっこでは申し訳ないという程度の意味である。

【中川 裕子 委員】

谷津みのり保育園、菊田みのり保育園において、今までに地域や近隣の学校等と連携している実績があれば、お聞きしたい。

【飯塚 源太 理事】

近隣にある公民館の文化祭に参加した事例、近隣の子どもに対する定期的な園庭開放、幼稚園の話になるが老人ホームに行き、遊戯会の練習や歌の発表もおこなった。

昨今のコロナ感染症対策の絡みもあり、正直なところ、いろいろと難しくなるが、過去の事例はある。

【中川 裕子 委員】

応募書類の「保育の内容」の中で、「みのり幼稚園との交流」とあるが、どのような方法で交流しているのか。

【飯塚 源太 理事】

これも、コロナ以降はまったく実施していない。

以前は、年長クラスが菊田みのり保育園に遊びに行っていたが、今のご時世では、正直厳しい部分がある。

【竹田 佳司 委員】

社会福祉法人習志野、学校法人田久保学園として、本市においても長い歴史、そして豊富な経験があり、実績については、非常にありがたく評価している。

お伺いしたいのは、延長保育・特別保育における実績ということで、菊田みのり保育園、谷津みのり保育園での実績をお聞きしたい。

また、幼稚園での実績もあると考えるが、一時保育、延長保育における今後の予定があればお伺いしたい。

【飯塚 源太 理事】

延長保育、一時預かり保育、休日保育については、基本はニーズ次第と考えており、地域固有の事情を三者協議会等で判断しながら決めていきたい。

実績については、菊田みのり保育園で一時預かり保育を実施している。現在、職員不足により一時的に休止しているが、新たな採用も決まり、4月から再開する予定である。

【竹田 佳司 委員】

施設の配置計画図上では、一時保育室を確保いただいているようであり、移管先法人となった場合において、地域ニーズがあった際は、よろしくお伺いしたい。

次に、計画図にある地域交流という部屋の活用方法をお伺いする。

【飯塚 源太 理事】

1階の入口付近に地域交流スペースを計画している。

地域性を考えるとお年寄りが多いと予想できるため、先ほどの合唱の披露などの交流

を計画しているが、これも感染症対策という観点から、実際はかなり厳しそうである。

【田島 大輔 委員】

非常に現実的かつ、回答も現実路線だと感じた。非常に公立からの移管が多く、ノウハウを持っているため、僭越ながら期待を込めて、職員の研修について伺います。

まず、長年にわたり、私立幼稚園を経営されつつ、公立幼稚園を幼保連携型認定こども園として移管を受け、また、公立保育所も移管を受けている中で、公立の内容を引き継ぐことは大事である。

また同時に、保育所保育指針、習志野市保育一元カリキュラムという軸を遵守するうえで、研修計画は詳細な記載でわかりやすいが、実際の保育所及び幼保連携型認定こども園における会議の持ち方、ノンコンタクトタイムの持ち方が非常に重要となる。

多数施設を運営しているだけに、どのように実施し、また、どのような考えを持っているのかお聞きしたい。

2点目、保育者は、どのように地域ニーズと保育内容を合わせるかが重要であるが、自己評価をどのように考えているかお聞きしたい。

【飯塚 源太 理事】

研修に関しては、やはり一斉に集まることが極めて難しい。

幼稚園的な発想で言えば夏休みにみんな集まれとなるが、保育園ではなかなかそれが難しく、実際は初任者向け、中堅向け、ベテラン向けという形で、ターゲットを絞った研修を月1回、園内研修として実施している。

また、処遇改善Ⅱという制度により研修が義務化しているが、各個人での申し込みであること、またオンライン研修もあることから研修時間も取りやすく、受講状況を見ると、各園において人のやりくりを頑張り、しっかり研修に行っている印象がある。

今の谷津みのり保育園、菊田みのり保育園の礎をつくったと言っても過言ではない、公立で管理職として長く勤められた先生がおり、園内研修に関しては、公立仕込みでかなり充実している。

次に自己評価については、ベースとして第三者評価を定期的実施している。その外部評価を真摯に受けとめつつ、毎年、職員一人一人の自己評価を実施している。

上司の評価については、なかなか会社のように賞与等に反映させることが難しい世界ではあるが、処遇改善Ⅱにおける役職の任命に大きく関わる場所であり、評価記録を残しながら取り組んでいる。

【田島 大輔 委員】

施設が多くなると、ミドルリーダー及び主任、園長などの管理職側としての理念や園のマネジメントが大事となるが、その部分に対する評価をどうしているのか。

職員側からの評価、運営法人からの評価、園のマネジメントに対する評価について、検討されているのか。

【飯塚 源太 理事】

ミドルリーダーに対する評価、動機付けについては、ここ5年ぐらい、一番の課題としている。

私の立場からすると、数字ベースで比較的簡単に目標を立てられるが、なかなか現場の先生やリーダーたちには難しいらしく、私とのコミュニケーションが足りないのかもしれ

ないが、頑張っていきたい。

【齊藤 勝雄 委員】

施設整備に関して、総括的に伺います。

この施設整備にかなりの経費を投じ、工事を進めるにあたり、地元経済の活性化、雇用促進につなげたく、募集要項に市内業者の活用を謳ったところである。

これまでも、市内業者の活用に尽力いただいているが、改めて、今回はどのような形で市内業者を活用するのか、現時点における考えがあればお聞きしたい。

【飯塚 源太 理事】

補助金の内示をいただいてから入札という流れになる。

その入札で決まった元請業者に、なるべく地元業者を活用するよう依頼する。

ただ、あまり具体的な指示をすると法令違反となるため、正直なところ、お願いする程度になる。

【齊藤 勝雄 委員】

是非、地域の活性化のためにご尽力いただきたい。

【小平 修 副委員長】

職員の採用方法について伺います。

子どもたちの環境が変わらないよう、移管された後に貴法人で雇用され、保育士として活躍したい会計年度職員がいた場合の対応について、考えをお聞きしたい。

【飯塚 源太 理事】

正規職員の新規採用については難しくないという話を先ほどしたが、逆にパートの方は、欲しい時間に来てくださるのが難しく、むしろこちらから、今、働いている方にお願ひしますと言いたいぐらいの勢いである。

また、臨時採用で働いている方でも、正規職員になりたいと希望があれば、ぜひお願いしたいところである。